

ゆっくるも通信

令和7年 2月20日 第13号

留萌市教育委員会

教育支援センター「ゆっくるも」

不登校を0にするためには、早期発見・早期対応を！

以前もこの紙面でお知らせしましたが、学校に行けない子どもたちへの対応は一律ではなく、子どもの状態によって変えていく必要があります。学校復帰や社会的自立に向けて具体的な目標や対応を考えるとときには、その子どもが現在どのような状態にあるかを評価する必要があります。

状 態	登校状況	外出状況	状況の詳細	対応方針
状態 0 ほぼ正常に登校している	登校できる	外出できる	・登校に対する心理的不安を抱え、行き渋りがみられることもあるが、毎日登校できている状態	早期対応 早期発見
状態 1 遅刻・欠席がしばしばある保健室通いが多い			・週1～2日休む程度で登校している。または、登校できているが、早退や遅刻が週のうち半分以上、あるいは、保健室や別室をしばしば利用する状態	
状態 2 保健室・別室登校半分以上欠席している			・週3日以上欠席している。または、登校しているが、保健室・別室登校が半分以上の状態	
状態 3 学校以外の施設への定期的参加ができている	登校できない	外出できる	・登校はできないが、学校以外の場所（教育支援センター等）には定期的に通うことができている状態	自立支援 復帰支援
状態 4 比較的気軽に外出できる			・登校はできず、定期的に通える場所もないが、外出は比較的自由にできる状態	
状態 5 家庭内では安定しているが外出は難しい		外出できない	・登校できないが、家では落ち着いた生活ができている。外にはほとんど出ないが、家族と関わるができる状態	
状態 6 部屋に閉じこもり、家族ともほとんど顔を合わせない			・登校できず、家でもほとんど自室から出ず、家族と関わることもなく、心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい状態	

（「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」より参照）

不登校の状態が0～2の場合は、その背景にある要因を多面的かつ的確に把握し、早期に適切な支援に繋げる必要があります。「しばらく様子を見てから……。」などと言って時間をおくと、その子の不登校の状態は、あっという間に3から5の状態になってしまうこともあります。

不登校は何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるので、その子の気持ちを理解し、思いに寄り添いつつアセスメントに基づく個に応じた具体的な支援計画を立てていく必要があ

ります。その支援計画に沿って、別室登校や保健室登校、校内教育支援センターの活用を進めていくことになります。この部分を丁寧に進めていかないと、登校の時期がますます遅くなってしまうこともあります。以前、「子どもが学校に行けなくなったんです。」と保護者の方が「ゆっくるも」に相談にいられて入級の手続きをしたのですが、その後その子が所属する学校の迅速な対応と適切な支援のおかげで「ゆっくるも」へ通うことなく、今はちゃんと学校に通うことができているという例もあります。

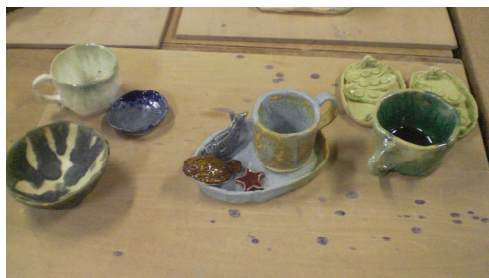


各学校におかれましても、不登校の子どもを〇にするために日頃から子どもたちの実態把握に基づいた組織的対応が進められていることと思います。しかし、事例の中には学校だけで対応できない場合（福祉的な対応を必要とする場合）や子どもの生活環境、能力・資質が原因で不登校になって「登校できない」状態が続いてしまい、再登校が困難な場合もあると思います（状態3～6）。「ゆっくるも」では、そのような子どもたちの学校復帰、社会的自立に向けた

支援についてお手伝いしております。保護者の方へ「ゆっくるも」を紹介していただいたり、学校の対応へのご協力もできると思いますので、是非ご相談いただければと思います。

陶芸作品できました！

昨年より子どもたちが制作していた陶芸作品ですが、素焼き→釉薬がけ→本焼きという工程を経て、1月28日（火）、子どもたちの陶芸作品が無事できあがりしました。「陶芸が初めて！」という子どもが多く、どんな作品ができあがるか楽しみでしたが、思いのほかよいできあがりでみんなとても喜んでいました。



「早速家で使ってみた！」という子もいたようです。

今回の陶芸教室では留萌市陶芸サークルの皆様到最后までご協力をいただきましたこと、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



- 学校に行きたくても行けない子どもたちのことについて、教育支援センター「ゆっくるも」にいつでもご相談ください。

(Tel 090-9005-5338)

